

山内議員

社会資本整備総合交付金について

問①社会資本整備総合交付金事業のうち、地域活力基盤創造交付金で平成21年度執行額と22年度の予算額について伺う。

答①21年度事業費は、地域活力基盤創造交付金が除雪を含め4300万円、道整備交付金が1400万円の事業費。22年度の当初予算に計上してある事業費は、地域活力基盤創造交付金が除雪費を含め6935万円。道整備交付金が7200万5000円。

②各地区からの要望等を踏まえ道路改良の場合、優先度合いを国道への幹線道路、集落間道路、集落内道路の順に、さらに通学道路等を加味し判断している。

なお、地域活力基盤創造交付金は社会資本整備総合交付金に移行するが、道整備交付金は現行のままである。



③交付金事業の対象にならない小規模な道路や水路の改良、修繕

について、市単独事業の道路修繕工事費、道路単独事業費、水路修繕工事費、水路改良工事費等の事業を進めていく。事業費は、22年度当初予算案に計上してある額で、道路修繕工事費で2070万円、道路単独事業費で8874万2000円、水路修繕工事費で1400万円、水路改良工事費で2000万円。

松村議員

バス交通体系の課題について

問これから勝山市の公共交通を考えるにあたり、まずその課題を整理したい。

市の公共交通は、えちぜん鉄道とバス交通の2本立てで成り立っている。そのバス交通について、市民の不満は大別すると次の3つに集約されると考える。

①バス路線の問題は詰まるところバス停までの距離の問題。そこで現在、バス停留所がない集落・地域の数はどの程度か。

②バスの便数については、どのような考え方で設定しているのか。

③バス運賃については、かねてより100円で廻れる「ぐるりんバス」との整合性が問題になっている。そこで、運行費用に対して運賃収入がどの程度あるのかを伺う。

答①市では、従来から概ね集落・地区からバス停までの距離を500m程度と考え設計し運行してきた。それ以上離れた集落・

地域交通に関しては、地域公共交通会議に諮ることになっているが、この席でどのような課題が表面化しているのか。

その他の質問
・子ども手当の自治体負担について
・環境自治体会議開催への取り組みについて

地区は9地区である。

②バスの便数は、基本的に朝・昼・夕の最低3便を確保している。

③バスの運行経費に対する運賃収入は、各路線とも1割から2割程度となっている。

地域公共交通会議では、市のバス体系は完成度が高いと言われているが、バスの運行維持費は年々増加していることから、利用増につなげるため、今後も利用者・地区から意見をいただき、平行して抜本的なバス体系の見直しも研究していきたい。

